

ポルカドット号探検記

キティ旋風

松本市美術館館長 小川 稔

ひと頃、ウーパールーパーなる愛嬌ある水性動物が人気を集めた。十分大人なのに幼児のようなアンバランスな容姿を幼形成熟（ネオテニー）などと言うそうだが、社会学者はキティちゃんに代表されるわが国のキャラクターブームをこの専門用語で説明したりする。

西洋型八頭身に程遠いプロポーション。誰にも愛される可愛らしい小児の体型だが、いつか、だれもこの世界から遠ざかる。だが、幼稚、未熟と見られがちなこの領域を現代人に必要な文化と認めたのが現代日本。

わが国の美術史をさかのぼると、このことを思わせる作品によく出会う。遠い祖先たちは素朴なひと形や小動物の植輪を作っていたし、法隆寺の童子形仏像や鳥獣戯画などもその典型ではないのか。成長出来ずに命を落とす子供が多かった時代、神社には幼子の姿の神々も祀られていた。

時を止め、永遠の幸福な世界を願い、大人になってもそこで生きることがで



※会場写真はイメージです。
© 2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. SP660006

きるなら、こんなよいことはないだろう。だが目の前に厳しい現実がある。だから愛らしいキャラクターを身に付けて自分を守っているのかもしれない。このこだわりは特別な個性として世界中で認知されているようだ。今、kawaiiの語をネット検索するとびつくりするほどの件数があらわれる。我々に親しい日本語が国際共通語になっているのではないか。アニメにコミック、ゲーム等々、わが国のカウンターカルチャーを求めて訪れる人々が引きも切らない。

ART EXHIBITION GUIDE

当館学芸員 稲村 純子

日本発の「カワイイ」文化はどのように育ったのか。サンリオの歴史とキャラクターの軌跡を辿る、サンリオ史上最大の展覧会が松本にやってきました。

高度成長期が始まった1960年にサンリオの前身である「山梨シルクセンター」が起業しました。これからの世の中は実用品だけではなく、毎日の生活に余暇や遊び心を与える商品が求められるようになります。人を感動させるサービスを提供しようという。人を感動させる商品とは？サンリオが試行錯誤の上に辿りついたのが「カワイイ」という付加価値をつけることでした。そこで生まれたのが「いちご」シリーズです。いちご柄の雑貨やステーションナリは瞬く間に評判となりました。「カワイイ」という付加価値がつけば、人々を感動させることができる。この時、サンリオの「カワイイ」がスタートしたのです。

1960年代半ばになると、水森亜土、やなせたかし、内藤ルネら人気



大ヒットしたいちごシリーズ

60TH ANNIVERSARY SANRIO EXHIBITION THE BEGINNING OF KAWAII

永遠の「カワイイ」は
ここからはじまった——
サンリオ創立60周年の大博覧会開催！



イラストレーターの絵を使ったアイテムが登場し、その後にサンリオのオリジナルキャラクターが誕生します。パティ&ジミーから始まり、ハローキティ、マイメロディ、リトルツインスターズ（キキ&ララ）、タキシードサム、ゴロピカドン、ハンギョドン、マロンクリーム、けるけるけるつび、ポチャッコ、ポムポムプリン、シナモロール…これまでに450以上のキャラクターが生み出されてきました。驚くべきことに、現在でも人気のキャラクターがたくさんいます。



サンリオ展 ニッポンのカワイイ文化60年史

会 期／2026年1月21日(水)～3月29日(日) 開館時間／9:00～17:00(入場は16:30まで) 休館日／月曜日(休日の場合は翌平日)
観 覧 料／一般：1,600円、中学生・高校生：1,000円、小学生：600円、未就学児：無料
一人で2回使ってもOK！ペアチケット：3,000円 ※ペアチケットは、セブンチケットのみの取扱い

※障がい者手帳携帯者とその介助者1名無料 ※高校生は、観覧当日、証明書(生徒手帳等)をお持ちください ※小学生以下のみでの入場はできません

主催／松本市美術館、SBC信越放送、信濃毎日新聞社
後援／長野県、長野県教育委員会、上田市、上田市教育委員会、塩尻市、塩尻市教育委員会、安曇野市、安曇野市教育委員会、大町市、岡谷市、岡谷市教育委員会、諏訪市、諏訪市教育委員会、茅野市、茅野市教育委員会、山形村、山形村教育委員会、朝日村、朝日村教育委員会、長野県PTA連合会、(一社)長野県私立幼稚園・認定こども園協会、(一社)長野県保育連盟
協賛／ミサワホーム甲信株式会社、塚田理研工業株式会社、株式会社大和 企画制作／サンリオ展製作委員会 制作協力／TMエンタテインメント

Relay Essay Restart

当館学芸員 中澤 聡

あるが学生時代の学びを継続していたら…。後悔の日々は何年も続いている。

今秋、画家・石井柏亭(はくどう)の展覧会を開催した。洋画、日本画、版画と各ジャンルで日本の近代美術史に足跡を残した柏亭は、俳人、詩人、評論家、教育者としても活躍し、また、語学も堪能だった。ただし、それは柏亭の努力によるものだ。13歳の頃、柏亭は父の離職に伴い中学校を退学し、働きはじめた。2年後、父が死去すると家計はさらに逼迫するが、それでも夜間学校などに通って英語を身につけた。晩年、欧米を旅した際の日記は英語とフランス語で綴られているし、妻・加代さんによると、柏亭は少しでも旅先のことを覚えることを心掛けていたのだという。

1945年の冬、柏亭は戦後の代表作となる『山河在』を手がける。タイトルは中国の詩人・杜甫の詩『春望』の一節に着想を得たもので、画面には松本郊外の風景が広がる。著書によると、本作は、翌年3月に開かれた第1回作品展の際、『Nature as before』と訳された。また、柏亭は会期中、アメリカから来日中の教育使節団の通訳を務め、「アメリカ人に『山河在』の意義を大いに説明する」と意気軒昂であったという。なんとたくましい。柏亭に背を押され、徐々に英語の本を持ち出した。彼のように、とはいかないが、少し先の未来ではメールを返信する指先が軽やかであることを願って。

とある関係者のメールを開くときは、若干気が重い。「Dear…」からはじまる、英文のメールだから。

作品の貸出は、海外の美術館が相手方となる場合もある。海を越え、見知らぬ土地で開かれる展覧会。展示構成に当館の作品が組まれることは大変ありがたい。来館を検討する方々からのお問合せもうれしい限りである。ただ、いかにせんやりとりが英語なのだ。僅かばかりではあるが、後悔の日々は



松本市美術館 NEWS
あーとふる 編集・発行

松本市美術館
MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART

〒390-0811 長野県松本市中央4-2-22
tel 0263-39-7400 fax 0263-39-3400
https://matsumoto-artmuse.jp

松本市美術館公式 SNSはこちらから▶



X



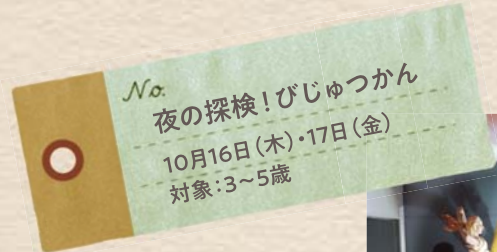
Instagram



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

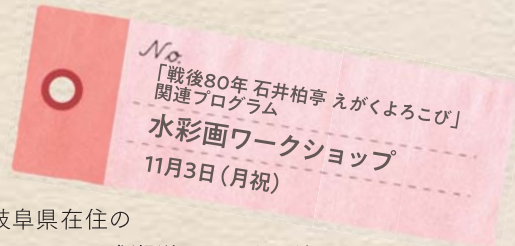


Workshop report



「探検!びじゅつかん」は、初めての美術館体験を楽しいものにした。そんな願いからはじまったプログラム

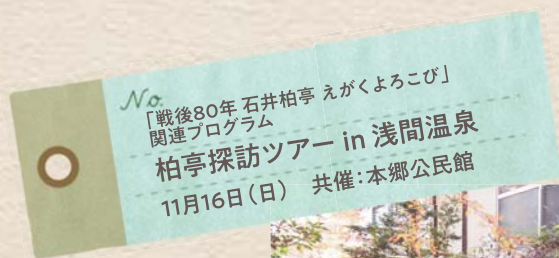
です。今回は、懐中電灯を片手に親子で作品を鑑賞しながら夜の美術館を探索しました!普段は見ることのできない美術館の裏側も探検して、子どもも大人もワクワク・ドキドキ。楽しい気持ちが残りに、美術館を好きになってもらえたら嬉しいです。



講師に岐阜県在住の

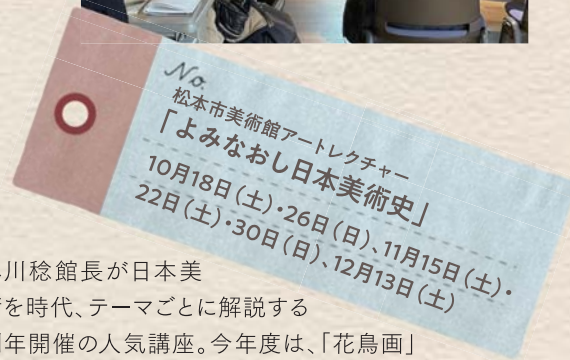
イラストレーター・成瀬洋平さんをお迎

えし、「透明水彩で自由に遊ぼう」(子ども向け)と「透明水彩で描く 旅と山の風景」(大人向け)のワークショップを開催。「石井柏亭展」会場で成瀬さんから柏亭の描き方について教えていただいた後、実際に透明水彩ならではの表現を楽しみました。



石井柏亭ゆかりの地、浅間温泉を1時間30分ほどかけ散策しました。柏亭は1945年に現在の松本市浅間温泉に疎開し、その後約13年間を同地で過ごしました。

秋晴れの中、実際に滞在した旧温泉旅館跡やその後長く住んだ居宅、作品の制作地などゆかりの場所を巡り、柏亭が暮らした往時の姿に思いを馳せました。



小川稔館長が日本美

術を時代、テーマごとに解説する

例年開催の人気講座。今年度は、「花鳥画」

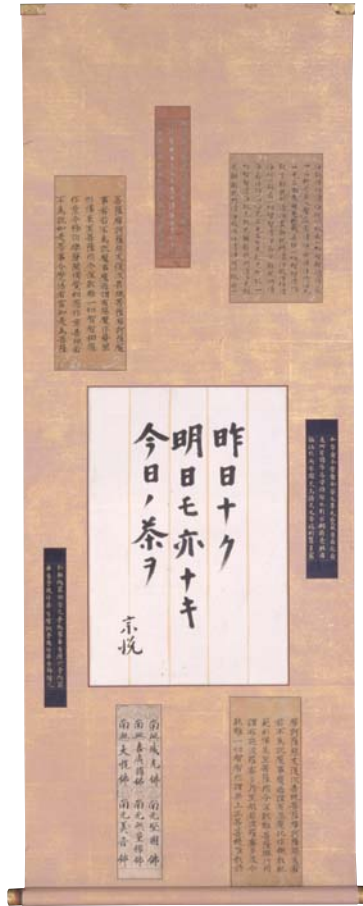
「円山応挙」「応挙の弟子たち」など江戸期の日本美術を中心に学びました。館長の話に耳を傾けながら熱心にメモを取る方が多く、本講座への関心の高さが感じられました。

視る

《茶偈》

さうた

当館学芸員 北原麻椰



池上百竹亭コレクションは、松本市の文人・池上喜作が生涯にわたって蒐集した近代文芸資料を主とする201点の総称である。作品の多くは、池上が作家たちと親交を深めるなかで蒐集された。池上は雑誌『白樺』を通じて、民藝運動の提唱者・柳宗悦とも親交を深めた。そういった縁もあり、池上は、戦後、

日本民藝協会長野県支部の初代支部長を務めるなど積極的に民藝運動に参加するようになる。コレクションに、柳宗悦、棟方志功、バーナード・リーチといった民藝運動を牽引した作家らの作品が含まれているのは、そのためである。

本作は、当館が所蔵する柳の作品3点のうちの一つ。「茶偈」とは、柳の茶道観を表した短文の句、「偈」とは仏教の真理を詩の形で述べたものを指す。過ぎ去った昨日を悔やまず、来る明日を思い煩わず、今日この瞬間に向き合い、目の前の一服のお茶を心静かに味わう。茶の世界においても仏教の真理が共通

しているという柳ならではの思想の表れといえる。表装には、經典の断簡が使われており、柳の世界観に共鳴した興味深い仕立てになっている。

2月から開催するコレクション展示では、柳ら民藝運動の指導者が松本に遺した作品と、民藝思想を受け継ぎその発展に寄与した三代澤本寿ら^{もとし}の作品を紹介する。「民藝」が誕生して100年を迎えた今、なぜ松本が民藝のまちと呼ばれるようになったのか。先人たちの足跡から民藝の歩みを振り返る機会としたい。

作者…柳宗悦(1889-1961)
作品名…茶偈
制作年…不詳
技法・材質…墨書・紙本
サイズ…46.1×30.8cm

本作は、民藝百年を記念して開催するコレクション展示(会期2026年2月3日(火)〜5月31日(日))でご覧いただけます。

身近な ART 「一筆箋」

当館学芸員 務臺 歩



出かけた先でしばしば一筆箋を買って帰る。昔にくらべて随分と手紙を書かなくなったし、持ち歩くなら付箋やメモ帳の方が勝手が良い。今どき需要が少なくて、そのうち消えはしないかと勝手に心配しているが、旅先の売店やミュージアムショップには数種類並んでおり、文具店で新しい柄を見かけると嬉しくてつい買ってしまふ。無季の方がなにかと重宝するのだろうか、やはり季節にぴったりのものを合わせて楽しみたい。

なんやかんやと買っては引出しにたまっていくものの中からいくつを取り出してみた。それぞれのデザインをよく見ると、ご当地の植物や風景を取り合わせたもの、着物の柄や本の装丁を写しとったもの、収蔵しているコレクションを載せたものなど様々だ。その土地ならではの植生や建築物、その時限りの催し物のデザイン、改めて眺めていると、訪れた場所の景色や展覧会が思い出される。知らぬうちによき土産となっていたらしい。

こう束にしてみると、それぞれ微妙に寸法が違うようだ。紙幣と同じ大きさならば、長財布に折らずに挟めるのに、とも考えたが、どうにも物を書くには小さいようでしっくりこなかった。寸法だけでなく紙の質感も和紙調のものからペンの走りが良さそうなものまで様々で、それぞれの挿絵が活きるような絶妙な塩梅なのであろう。

またひとつ手元のない柄を探してみたくなってしまう。